



横浜市立田奈小学校
学校だより

平成27年 9月30日

10月号



みのたなくん

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/>

校長 二瓶 光代
Tel 045-981-0009

生命力 ～田奈小育ちの苗～

校長 二瓶 光代

9月28日、5年生は無事に田奈っ子水田で稲刈りを行うことができました。地域の皆様、保護者の皆様ご協力ありがとうございました。今年の5年生は、稲を苗から育てたいという願いを持ちました。地域の方をお願いして、モミから芽が出たばかりの時、少し譲っていただけることになりました。地域の方は、子ども達にわかりやすく

「今の状態は、生まれたての乳児のようなものだから温度管理が大切です。」と、おっしゃって苗床の上にかぶせるものまで持って来てくださいました。苗床を置く場所や水やりなど子ども達は試行錯誤し、苗は日増しに成長していきました。ところが、強烈な日差しを浴びたせいか、突然、葉や茎がカサカサになり枯れたような状態になってしまったのです。田植え数日前のことです。そのまま枯れてしまうことを認めたくない気持ちもあったのでしょう、子ども達は、地域の方が育ててくださった立派な苗と一緒に自分達が育てた苗を植えることにしました。地域の方は、乾燥して小さくなってしまった苗の中から田植えする苗を真剣に選んでくださいました。それ以来今年も、田んぼに行くと、まず、水田の看板前の12株を見るようになりました。12株は、枯れるどころか、他の苗と見分けがつかないほど大きくなりました。一つの稲穂につくモミの数や粒の大きさを稲刈直前に比べてみましたが、素人目には違いはわかりませんでした。(前ページ写真右) 稲の生命力に感動するとともに、地域の方の的確な選別に驚かされました。

稲の生命力で思い出すのが、「ひこばえ」です。これは、稲刈りの後、切り株からもう一度緑の稲が顔をだすことです。上部は刈り取られても根は生きていて、小さな稲穂が実ることもあります。田奈でも、ひこばえが育って田んぼがうっすら緑色になっているのを見たことがあります。

今年も、稲作から子ども達は、たくさんのことを教わってきました。自然の偉大さ、植物の連続性、生態系、命の尊さ、地域の方の農業に対する探究心や優しさ、働くことの意味……。これらの体験を通しての学びも、「(学校教育目標) たくましく生きる」ことにつながっています。